

# 徳島大学附属図書館ビジョン 2020

## 「知の広場」～知と出会い，人と出会い，自分に巡り合う～

### I 徳島大学附属図書館のビジョンと目標

平成 28 (2016) 年、『国立大学図書館協会ビジョン 2020』が策定され，大学図書館の新たな基本理念として「大学図書館は，今日の社会における知識基盤として，記録媒体の如何を問わず，知識，情報，データへの障壁なきアクセスを可能にし，それらを活用し，新たな知識，情報，データの生産を促す環境を提供することによって，大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する」と定められた。附属図書館は，これに基づく新たなビジョンとして，以下を定める。

徳島大学附属図書館は，「知の広場」の創出により，異世代・異分野交流を活性化し，学生の能動的な学習を促すと共に，本学の学術情報基盤を発展させ，イノベーションを生み出す風土を醸成する。

ビジョン実現に向け 3 つの目標を設定し，令和 3 (2021) 年度までのアクションプラン (別紙 1) を策定，5 つの領域において重点的な取り組みを定める。

目標 1 「知の広場」の創出 ～新たな図書館整備構想～

目標 2 読む力の向上 ～読書振興と学習支援～

目標 3 オープンサイエンス推進 ～学術情報基盤の整備と拡充～

### II 重点的な取り組み

#### 1. 教育支援

令和 3 (2021) 年度に予定されるキャンパス情報基盤システムの更新では，ノートパソコン必携化<sup>1</sup>により，教育用端末の大幅な台数削減が予想される。跡地活用を含めた館内ゾーニングのトータルな見直しを行い，「目標 1 「知の広場」の創出」につなげる。あわせて，より資料へアクセスしやすくなる新たな図書館システムを検討する。さらに図書館ホームページや館内案内システムについて検討する。

本学学生一人あたりの月間貸出数 (図書) は 0.65 冊 (2018 年度) であり，全国平均並 (同規模大学による比較) ではあるが，年々，減少傾向にある。「目標 2 読む力の向上」のため，適切な資料整備に加え，積極的な読書振興を行う。具体的には，図書館や読書について学生と懇談するライブラリーカフェ (仮称) や読書大会等を企画実施する。その他，郷土資料コーナーや展示コーナーの充実，ブックハンティングや古本市の開催，書評コンテストや POP の活用，「My Recommendations (おすすめ本の紹介)」や「授業サポートナビ (パスファインダー)」の拡充等に取り組む。

平成 25 (2013) 年から開始した学生協働による学習支援は，全国でも先駆的な取り組みであり，学習相談窓口 SSS (Study Support Space) の開設にとどまらず，レポートの書き方講座やビブリオバトル等各種イベントを，学生と協働で実施している。今後も学生のニーズをくみ取るため，協働体制を強化する。

学生が生涯にわたり，自ら課題を見つけて解決策を導き出す能力を身につけるため，資料や学術情報を活用するリテラシー教育を拡充する。ノートパソコン必携化に伴い，電子書籍の重点整備と利用促進を行う。また，留学生への支援に積極的に取り組む。

#### 2. 研究支援

平成 28 (2016) 年に裁定した「徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針」に基づき，研究成

<sup>1</sup> 平成 31 (2019) 年度の学部入学生から導入

果論文の徳島大学機関リポジトリへの登録促進に引き続き取り組む。

近年、シチズンサイエンス、オープンイノベーションの基盤となるオープンサイエンスが国内外で推進されている。国立大学図書館協会においても、オープンサイエンスは大学図書館が果たすべき重要な役割のひとつとされ、推進に向けたアクションプランが構想されている<sup>2</sup>。これらの動きと軌を一にし、「**目標 3 オープンサイエンス推進**」に向け、研究データ公開やデジタルアーカイブ（貴重資料）再整備の取り組みを行う。

加えてオリジナルな紙媒体である貴重資料や、劣化の進むマイクロ資料の保存対策を行う。

電子ジャーナル等の整備は、縮減する財政状況の中、整備方針（2019～2021年）により計画的に実施しているところであるが、新たな整備方針（2022年～）を令和2（2020）年度中に策定する。

### 3. 地域貢献

学外者への年間貸出冊数は8,021冊（2018年度）であり、全国平均（同規模大学による比較）を大きく上回っている。「**目標1「知の広場」の創出**」と「**目標2 読む力の向上**」のため、今後も開かれた図書館として、県内の公共図書館、大学図書館等との連携を強化、地域住民の生涯学習、文化活動、課題解決を支援する。

具体的には、図書館利用拡大のための広報強化や、学術講演会等のイベントを実施する。また学内や関連組織のイベント等のチラシ等を集め、電子的に保存、公開する大学情報コーナー（仮称）の設置を検討する。

### 4. 環境整備

「**目標1「知の広場」の創出**」のため、館内ゾーニングを見直すと同時に、電子情報へのより快適なアクセスを実現するため、館内のIT環境を整備する。

バリアフリー化（障がい者支援）、老朽化した書架や書庫の安全対策、防災、BCP<sup>3</sup>に取り組む。特に、津波浸水の想定される本館2階に置かれたサーバや貴重資料の移転を検討する。

学内の関連部署との連携及び遊休施設、屋外エリアの整備、活用により、キャンパス全体の読書環境の整備を図る。

### 5. マネジメント

働き方改革への対応や、図書館に求められる新たなニーズに必要な人材を配置するため、業務改善や省力化を図る。特にICタグ、RPA<sup>4</sup>等、新たな技術の活用を検討する。

各種研修やeラーニング等により、図書館職員の専門性を高めるとともに、ビジョン実現に向けた様々な事業を将来にわたり持続させるため、各分野の専門家と、職種や組織の枠を超えた連携を図る。

PDCAサイクルによる内部質保証のため、利用者からの意見徴収（アンケート等）や、他大学との比較により分析・評価を行い、評価情報及び改善策を開示する。

財政基盤を強化するため、古本募金等、財源確保（自己収入）に向けた取り組みを行う。

（令和2年3月18日附属図書館運営委員会決定）

<sup>2</sup> 国立大学図書館のオープンサイエンスへの取り組み -研究成果と学術情報のより幅広い共有と活用に向けて-、国立大学図書館協会、平成31年3月12日、[https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-03/janul\\_statement\\_of\\_activities\\_on\\_open\\_science\\_20190312.pdf](https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-03/janul_statement_of_activities_on_open_science_20190312.pdf)

<sup>3</sup> Business Continuity Planning（事業継続計画）

<sup>4</sup> Robotic Process Automation（ロボットによる業務自動化）

# 徳島大学附属図書館アクションプラン (2019~2021)

**知の広場**  
 ~知と出会い、  
 人と出会い、  
 自分に巡り合う~

**1 教育支援**  
 ・「知の広場」の創出  
 ・読書振興策による読む力の向上  
 ・学生協働による学習支援

**2 研究支援**  
 ・機関リポジトリ登録促進  
 ・オープンサイエンス推進  
 ・電子ジャーナル等の計画的整備

**3 地域貢献**  
 ・学外者への広報強化  
 ・生涯学習、文化活動、課題解決支援  
 ・大学情報（イベント等）の発信

**4 環境整備**  
 ・バリアフリー、安全、防災、BCP  
 ・IT環境整備  
 ・キャンパス全体の読書環境整備

**5 マネジメント**  
 ・新たな人材配置と活用  
 ・PDCAに基づく内部質保証  
 ・自己収入による財源確保



**目標 1**  
 「知の広場」の創出  
 ~新たな図書館整備構想~

知の広場創出事業

新たな図書館システムや館内ゾーニング（教育用端末跡地利用）を検討

キャンパス情報システム更新（2022年2月）  
 大学情報コーナー（仮）設置

・遊休施設や屋外エリア活用の検討    ・駐輪場の整備    ・バリアフリー化    ・安全、防災対策    ・資料保存対策 etc.

**目標 2**  
 読む力の向上  
 ~読書振興と学習支援~

読書振興事業

・学生協働による各種イベント（ブックハンティング、ビブリオバトル、読書大会等）の企画実施  
 ・郷土資料コーナーや展示コーナーの充実  
 ・「My Recommendations（おすすめ本の紹介）」や「授業サポートナビ（パスファインダー）」の拡充

**目標 3**  
 オープンサイエンス推進  
 ~学術情報基盤の整備と拡充~

オープンサイエンス推進事業

・デジタルアーカイブ（古文書・古地図等貴重資料）の拡充と再整備  
 ・研究データ管理についての調査、検討 → 機関リポジトリの研究データ対応

電子ジャーナル等整備方針（~2021）による整備      新整備方針（2022~）の策定      新整備方針（2022~）による整備